

P. 394

◆（中島蔵人議員） 令和元年第3回鹿児島市議会定例会におきまして、自民維新の会の一員として個人質疑を行ってまいります。

次に、観光クルーズ船の誘致と対応策についてお伺いいたします。

国は、観光ビジョン実現プログラム二〇一九において、地域の新しい観光コンテンツの開発として、クルーズ客の満足度向上に向けた体験プログラムの開発や地元商店街への誘導、また、夜間に楽しめるイベント及び交通手段の確保、加えて医療ツーリズムの推進など、クルーズ客を呼び込み、地元の発展につながる事業の推進に重きを置いております。

そこでお伺いいたします。

第一点、鹿児島観光コンベンション協会、鹿児島港利用促進協議会及び鹿児島海外観光客受入協議会活動の受け入れ支援策と成果及び課題と今後の取り組みについてお伺いいたします。

答弁を願います。

P. 404

◎観光交流局長（有村隆生君） クルーズ船の受け入れにつきましては、鹿児島海外観光客受入協議会を中心に、港での歓迎行事や観光案内を行っているところであり、これまで多言語の音声翻訳機や自動外貨両替機を導入するとともに、鹿児島観光コンベンション協会において専任職員を配置するなど案内体制等を強化してきたところでございます。

また、二次交通や観光消費面でのさまざまな課題があることから、鹿児島港利用促進協議会及び受入協議会に交通事業者等の関係者を加えた連絡会議を開催し、対応策を検討しているところでございます。今後とも、関係団体等との連携のもと、受け入れ体制のさらなる充実に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

[中島蔵人議員 登壇]

P. 404

◆（中島蔵人議員） 答弁をいただきました。

クルーズ船の誘致については、交通事業者等の関係者も加えた連絡会議を開催され、二次交通や観光消費面などのさまざまな課題についての対応策等を十分検討されていかれるよう強く要望しておきます。

次に、第二点、九州管内及び鹿児島港へのクルーズ船寄港状況と動向の変化。

第三点、鹿児島港国際旅客船拠点形成計画による目標寄港回数と対応についてお伺いいたします。

答弁を願います。

P. 404

◎観光交流局長（有村隆生君） 九州の主要寄港地である博多港、長崎港、佐世保港及び鹿児島港における一月から七月までのクルーズ船の寄港回数を順に申し上げますと、平成三十年、百五十七、百三十三、六十一、五十七回、令和元年、百三十九、百四、五十一、六十八回でございます。近年、ツアー旅行の価格競争激化に伴う採算悪化により中国発着のツアーが減少してきている中で、他の三港については全体の寄港回数も減少しておりますが、鹿児島港については全体の回数がふえているところでございます。

県の計画によりますと、マリンポートかごしまの新たな岸壁が完成する令和四年に二百三十回、その後、十四年には三百十回の寄港を見込んでおりますことから、受け入れ体制のさらなる充実が必要になるものと考えております。

以上でございます。

[中島蔵人議員 登壇]

P. 405

◆（中島蔵人議員） 答弁をいただきました。

鹿児島港国際旅客船拠点形成計画によりますと、新たな岸壁が完成する令和四年に二百三十回、その後、十四年には三百十回のクルーズ船寄港を見込んでおります。とてつもな

い状態が予測をされ、うれしさと同時にクルーズ船の寄港受け入れが整然となされるものか大きな不安を払拭することができません。将来への抜本的、長期的な対策が不可欠であり、関係団体と真剣に知恵を絞り対処していかれるよう強く要望しておきます。

次に、第四点、寄港時の課題と対応及びおもてなし歓迎の現状と今後の取り組み。第五点、市電脇田電停の宇宿電停への名称変更と電停までの案内板やコース表示等の検討及び地元住民、団体等と連携し、交流を深めることについての見解をお伺いいたします。

答弁を願います。

P. 405

◎観光交流局長（有村隆生君） クルーズ船の受け入れに当たりましては、中心市街地へのアクセスの確保やツアーバスによる混雑緩和などさまざまな課題がありますことから、受入協議会において、関係する団体等と協議・調整を行っているところでございます。また、出入港時に同協議会においてアトラクションなどを実施しているところであり、今後とも、市民や各種団体等の協力をいただきながら、おもてなしの充実に努めてまいりたいと考えております。

次に、案内表示につきましては、マリンポートかごしまから脇田電停までの間に看板等を設置したところでございます。また、乗船客等と地域住民等との交流は、地域の国際化や活性化にもつながりますことから、御提案がありましたら、受入協議会を中心に協力してまいりたいと考えております。

以上でございます。

P. 405

◎交通局長（鞍掛貞之君） お答えいたします。

脇田停留場の名称は、大正元年、武之橋から谷山間が開業した当時に名づけられ、これまで地元を初め多くの利用者に親しまれ定着しておりますことや、その後に宇宿の名称を使用した宇宿一丁目停留場を設置していることなどから、お触れになりましたことにつきまして、今後見守ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

[中島蔵人議員 登壇]

P. 405

◆（中島蔵人議員） 答弁をいただきました。

外国客の方々が何よりも快く魅力を感じる楽しいおもてなしで迎えることができるかが寄港時の大きな課題であります。地元地域においても、各関係団体の協力体制のもと、乗船客等と地域住民等との交流を深めるため、おもてなしの受け入れの対応に知恵を絞って検討していくことが必要であります。

また、観光客にわかりやすい親切な対応のため、宇宿電停の名称変更やコース表示の対応など検討していかれるよう要望しておきます。

次に、マリンポートかごしま周辺の交通渋滞対策についてお伺いいたします。

第一点、現在の渋滞の状況と改善策。

第二点、海上交通を利用した二次交通実証実験の状況と今後の見通し。

第三点、マリンポートかごしま入口の交差点改良の検討が予定されていると伺っておりますが、現在の状況を以下お示しく下さい。

答弁願います。

P. 406

◎観光交流局長（有村隆生君） 大型クルーズ船の寄港時における交通渋滞の緩和策の一つとして、現在、浮き桟橋等を活用した船舶による二次交通の可能性について受入協議会において検討を進めているところでございます。

以上でございます。

P. 406

◎建設局長（松窪正英君） お答えをいたします。

お触れの交差点については、現在、県において大型車両同士が円滑にすれ違えるよう関係機関と協議しながら交通量の調査等を進めているところでございます。

以上でございます。

[中島蔵人議員 登壇]

P. 406

◆（中島蔵人議員） 答弁をいただきました。

マリンポートかごしま周辺の交通渋滞は、昨今、さらに激しくなっていており、クルーズ船の寄港のときの貸し切りバスが百台を超えるときなどは、まさしくパニック状態になるなど大変な状況であります。そのためにも船舶による海上二次交通の開通が期待をされております。速やかに少しでも大量輸送できる海上交通の対応が待たれており、本市においても関係機関と連携をしながら対応方に向けて進めていただくよう強く要望いたしておきます。

次に、鹿児島港臨港道路（鴨池中央港区線）等に関連して、まず、鹿児島港国際クルーズ拠点整備事業についてお伺いいたします。

事業期間は平成三十年度から令和三年度の四年間、総事業費は八十九億円として、ことし三月九日に着工されました。

そこで、以下お伺いいたします。

第一点、これまでの年度ごとの事業費と令和元年度の事業内容について。

第二点、運用開始に向けた今後の予定についてお示しください。

答弁を願います。

P. 406

◎建設局長（松窪正英君） 事業費は、平成三十年度が六億円、令和元年度がおよそ二十七億円で、元年度の事業内容は、岸壁について国がケーソン製作、据えつけ工事を進めるとともに、駐車場については、県が配置計画等に必要な調査設計を進めているところでございます。

今後の予定については、県によると、令和四年の国際クルーズ拠点の運用開始に向け、国やクルーズ船社と連携しながら、受け入れ環境の着実な整備に取り組んでまいりたいとのことでございます。

以上でございます。

[中島蔵人議員 登壇]

P. 407

◆（中島蔵人議員） 答弁をいただきました。

鹿児島港国際クルーズ拠点整備事業については、今年度およそ二十七億円の事業費がつき、令和四年の運用開始に向け着実な整備に取り組んでまいりたいとのことでございます。令和四年に運用開始されるとマリンポートかごしまに十六万トン級と二十二万トン級のクルーズ船が同時に寄港することが可能となり、本市の観光振興に資する効果が期待されるところであります。

次に、鹿児島港臨港道路に関してお伺いいたします。

第一点、これまでの年度ごとの事業費と令和元年度の事業内容について。

第二点、来年度以降の残事業費と見通し、早期供用に向けた本市の取り組みについてお聞かせください。

答弁を願います。

P. 407

◎建設局長（松窪正英君） これまでの事業費は、平成二十九年度が三億円、三十年度が二億円で、令和元年度は二億円の事業費で国において埋め立て部に必要なブロックの製作工事に着手する予定でございます。

また、来年度以降の残事業費は二百七十三億円となりますが、国においては、四年度の完成を目標に鋭意取り組んでいるとのことでございます。本市としては、臨港道路の早期供用に向け整備促進が図られるよう、本年八月、市長が国に対し直接要望を行ったところ

であり、今後とも、国、県と連携を図りながら取り組んでまいりたいと考えております。
以上でございます。

[中島蔵人議員 登壇]

P. 407

◆（中島蔵人議員） 答弁をいただきました。

事業期間が平成二十九年度から令和四年度の六年間、総事業費が二百八十億円の計画でしたが、今年度の事業費は二億円、令和四年度までに完成させるためには、残り三九年で二百七十三億円、年平均にすると九十一億円が必要となり、国の本気度が全く伝わってまいりません。本市や南薩の産業・港湾物流の幹線道路として、さらには、交通渋滞解消のために長年期待されていた臨港道路であるにもかかわらず、将来が危ぶまれてきてならないことを申し上げておきます。

次に、鹿児島港旧木材港区の埋め立てについてお伺いいたします。

先日の鹿児島県第三回県議会におきまして、鹿児島港旧木材港区の質疑の中で、土木部長の答弁で、「埋め立て後の土地利用につきましては、周辺の土地利用規制を踏まえた上で、民間活力を導入した県民や観光客の交流空間としたところであり、この土地利用の方向性に基づいて、用途をスポーツ・レクリエーション施設用地とし、また、利用計画を多目的交流広場敷や多目的交流施設敷などとする公有水面埋め立ての免許を今回申請したところであり、具体の土地利用につきましては、埋め立てに長い期間を要し、竣工時点での社会経済情勢が変化していると考えられることから、埋め立ての進捗状況に応じ検討することとしており、現時点で具体の土地利用は決定しておりません」との答弁がなされております。

そこでお伺いいたします。

第一点、改めて埋め立ての概要についてお示しく下さい。

第二点、今後の手続と本市の対応についてお聞かせください。

答弁を願います。

P. 408

◎建設局長（松窪正英君） 埋め立ての概要は、遊休化している水面貯木場等の有効活用と鹿児島東西道路など公共事業において発生する建設残土の受け入れ等を目的としており、埋め立て面積はおよそ十六ヘクタール、埋立地の用途はスポーツ・レクリエーション施設用地となっております。

今後の手続については、縦覧期間満了後、本市への意見徴取が行われ、意見を述べるに当たっては議決を経ることが必要であることから、今後、公有水面埋め立てに関する議案を提出することとなります。

以上でございます。

[中島蔵人議員 登壇]

P. 408

◆（中島蔵人議員） 答弁をいただきました。

当該土地に関しては、既にマスコミ報道により、県内のほうが高い関心を示しております。市内におけるポテンシャルのあるこの地の有効活用について、広く県民の英知を結集し、すばらしい空間、交流空間となることを期待しております。

最後に、都市基盤河川脇田川改修事業に関連してお伺いいたします。

第一点、全体事業費と進捗率。

第二点、都市基盤河川脇田川改修事業におけるしゅんせつ工事の工法と進捗状況。

第三点、脇田川の宇宿中間地区土地区画整理事業区域の上流及び前迫人道橋から下流の今後の整備についてお示しく下さい。なお、脇田川の上流の井堰で老朽化が進み、以前より地元の方々から整備要望があった井堰はどの程度整備が進んだのか、また、新たな要望が出ている井堰の今後の整備スケジュールをお示しく下さい。

答弁を願います。

P. 408

◎産業局長（鬼丸泰岳君） お答えいたします。

県、旧木材港区再開発

埋立へ護岸設計着手

総事業費は28億

県は、遊休化している鹿児島港の旧木材港区再開発に向け、公有水面埋立を計画している。面積は15万5036㎡。二つに工区分けするため、1工区が8年以内、2工区が13年

以内で31年度の完成を予定している。埋め立てに必要な護岸設計は、新日本技術コンサルタンツに委託して検討に入った。総事業費は28億円を見込み、将来的には土地の民間売却を

視野に入れている。埋め立て工法は、外周護岸および中仕切護岸により囲まれた二つのブロック(1工区および2工区)に区分して施工。1工区(9万2145㎡)の埋め立

ては、用地を有効活用するために先行して破工を目的としており、汚濁防止膜を展張して外海と遮断したあと、外周護岸および中仕切護岸の施工と合わせ、近隣の公共事業で発生した浚渫土と建設残土をダンプトラック等により順次投入していく。2工区(6万2890㎡)についても1工区と同様、汚濁防止膜を展張し、埋め立て区域を遮断して、外周護

岸の施工に合わせ、近隣の公共事業で発生した建設残土を陸上輸送により順次投入し、計画地盤高に仕上げ破工させる。また、既設排水管路と同規模の排水管路を埋立地の地下に配置する。土地利用計画は、1工区が多目的交流施設敷(約8ha)、2工区は多目的交流広場敷(約6ha)のほか、護岸敷と道路敷、緑地敷(約1.5ha)となる。

背景には、同地区周辺でマリンポートかごしまのクルーズ船専用バース整備により、大型クルーズ船寄港に伴う観光客の増加。また、臨港道路鴨池中央港区域整備で南北交流人口の増加など、スポーツ・レクリエーション施設の増加を想定。そのため、浚渫土や建設残土の発生が見込まれる公共事業の工程を考慮して、埋め立てを開始する必要がある。

なお、実施設計のほかに、地質調査(海上ボーリング3本、ΣL85m)をアジアテックに発注した。

VII 暮らしが潤い世界につながる県土の創造(1)

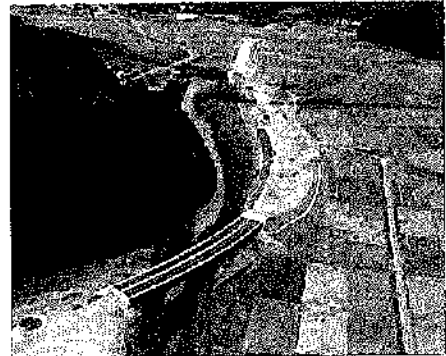
(1) 人やモノの交流を支える交通ネットワークの形成

① 主要幹線道路等の整備 21,299,382千円

地域間の交流・連携の強化、産業や観光の振興のほか、地域の安心・安全を確保するため高規格幹線道路等の整備を進めます。

主な事業

- ▶高規格幹線道路(国直轄)
東九州自動車道、南九州西回り自動車道
- ▶地域高規格道路
北薩横断道路(広瀬道路、阿久根高尾野道路)
都城志布志道路(末吉道路、有明志布志道路、志布志道路)
大隅縦貫道(吾平道路)



都城志布志道路(末吉道路)

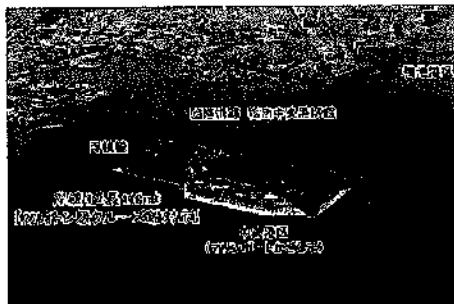
②(新) 錦江湾横断交通ネットワーク調査検討事業 10,888千円

錦江湾を横断する交通ネットワークについて、交通状況調査を行うほか、関係機関との意見交換を行うなど、本プロジェクトに関して調査・検討等を行います。

③ 臨港道路(鴨池中央港区線)の整備

354,350千円

鹿児島港における港湾物流の円滑化や臨海部及びクルーズ船寄港時のマリポートかごしま周辺の渋滞緩和などを図るため、臨港道路の整備を推進します。



マリポートかごしま

④ クルーズ船の受入環境整備 1,056,630千円

令和4年の国際クルーズ拠点の運用開始に向け、マリポートかごしまにおける22万トン級のクルーズ船が接岸できる新たな岸壁の整備など、クルーズ船の受入環境の整備を推進します。

⑤ 志布志港国際バルク戦略港湾の整備

209,040千円

志布志港において、飼料穀物の効率的な輸入に向けた船舶の大型化に対応するため、国際バルク戦略港湾としての整備を推進します。

⑥ 志布志港国際コンテナターミナルの整備

774,740千円

国際物流拠点として、コンテナターミナルの機能向上を図るため、岸壁の整備を推進します。



志布志港